

【記念講演】「平和の文化」と戦後 70 年の祈り

韓国と日本、二つの祖国を生きる

韓国光州市立美術館名誉館長

河 正雄 (ハ・ジョンウン)



戦後 70 年・日韓国交正常化 50 周年の節目に、第 19 回戦争遺跡保存全国シンポジウム千葉県館山大会で記念講演の機会を得たことは、在日韓国人二世として生まれ、喜寿を迎える私の人生を回顧するという意味に於いてとても意義深いことと感謝しています。

韓国には「恨(ハン)」という感情があります。日本語の「恨み」とは意味が違います。骨や髄、歯茎まで染み込んでいる感情です。歴史的な不運や災難、人間の意思では思うようにならない運命に振り回され、力が及ばない感情です。日本でも戦前に苦勞した体験を持つ方と同じ感情です。

渡日し苦勞した母は生前、「お前が偉くなったら母の苦しみ悲しみをみんなに伝えてほしい」と言いました。私は、母の願い「恨(ハン)」を語って人びとの魂を慰安するとともに、平和と幸福を求めて 20 世紀を回顧し、21 世紀を生きる希望への祈願を皆様と共有したいと念じています。

第二次世界大戦が勃発し、朝鮮人に対する徴用が法制化、創氏改名令が施行された 1939 年、日中戦争の戦時下、私は東大阪市で生まれました。振り返ると、民族的な「恨(ハン)」、そして不条理な戦争への恐れがこの当時にインプットされ、平和と幸福を希求する人生観と哲学が形成されました。日本と朝鮮半島との歴史が在日二世の運命に大きく影響したのです。

生後まもなく秋田県仙北市に移り、18 歳まで育ちました。貧困のなか秋田市内高校絵画連盟会長となり、画家を志しましたが、「男が絵描きになってどうする。飯が食えるはずがない」と猛反対され、断念しました。教師や新聞記者、弁護士にもなりたいたとも思いましたが、国籍条項や貧困のために諦めざるを得ませんでした。

高校卒業の寄せ書きに「大河の如く」と記しました。河の流れのように滔々と人生を生きようという青春の決意と宣言でありました。韓国と日本、二つの祖国の故郷を愛し、信頼し合える兄弟になるための架け橋になろうと祈念してきました。埼玉県川口市で同胞のために働きながら、ふとしたことから電気店を経営することになり、事業に成功しました。私は画家になれなかったけれど、それまで顧みられることなく苦勞してきた同胞(在日韓国人)の美術作品に出合って心揺さぶられ、その収集を始めることとなりました。全和鳳、李禹煥、曹良奎、呉林俊、金昌徳など多くの在日作家の作品は、その後、両国の美術界で歴史的評価が高まっていきました。

日本と韓国の間には歴史認識問題の溝があり、それらを乗り越えようと努力している人びとがいます。歴史を知らない、無知ということは、未来への展望が拓けないのです。平和を培っていくためには、しっかり歴史を学ばなければなりません。その事例をひとつ紹介しましょう。

私が生まれた 1939 年、辰子姫伝説の伝わる田沢湖畔に姫観音像が建立されました。これは、国策でダムと発電所が建設された時に絶滅したクニマスという魚類と辰子姫の霊を慰めるために建立した像であると、1981 年に町当局は掲示板を立てました。私はこの解説文に納得がいかず、意義を申し立てました。何かを秘めた「秘め観音」ではないかと思い調査を始め、10 数年かけて建立趣意書を探し出しました。すると、やはりダムと発電所建設のために徴用され、過酷な労働で

亡くなった朝鮮人を慰霊する観音像であったことが明らかになったのです。私が朝鮮人無縁仏追悼慰霊碑を建立した翌 1991 年のことでした。

私は在日韓国人画家の作品を収め、戦前の朝鮮人犠牲者を慰霊する「田沢湖 祈りの美術館」を建設したいと発起しましたが、その願いは叶いませんでした。けれどもその代わりに、1992 年、韓国光州市立美術館に在日韓国人画家の作品を寄贈する縁に恵まれました。その後、日韓両国の美術館に約 1 万余点を寄贈し、2012 年には私の名を冠した霊巖郡立河正雄美術館が開かれました。霊巖郡は両親の故郷であり、日本に古代文化を伝えた王仁博士ゆかりの地でもあります。

私のコレクションのコンセプトは「祈り」です。平和への祈り、心の平安への祈りです。犠牲となった人々や虐げられた人々、社会的な弱者、歴史の中で名もなく受難を受けた人々に向けられた人間の痛みへの祈りです。芸術の力は、韓日のわだかまりの根源と矛盾を克服し、地平を切り拓くことになりました。文化こそが、平和をつくる上で大きな鍵となります。

私が尊敬する、浅川巧という日本人を紹介します。1914 年、農林技師として日本の統治下にあった韓国へ渡り、禿山に植林して山を蘇らせるのです。朝鮮服を着て、朝鮮の食事をし、朝鮮の言葉を話して、朝鮮人を友とし、朝鮮の風習を身につけて暮らしました。それだけでなく、朝鮮の陶芸や民具の価値を認め、研究し発掘して光を当て、韓国の文化を広く知らしめたのです。朝鮮人からも愛され、非常に感謝されています。戦後、韓国では多くの日本人の墓が取りつぶされたなか、浅川巧の墓は韓国の人びとによって守られてきました。

私は日本で生まれた以上、日本の国で日本を愛し、日本人にも愛されて、日本に貢献し、日本人と一緒に力を合わせて地域社会をよくする生き方をしようと、浅川巧から学びました。異国人を見下すことなく、その文化を認めながら、両国の魂を結びつけて交流した先人の精神を忘れないようにと、私は山梨県北杜市の浅川伯教・巧兄弟資料館で「清里銀河塾」を開催しています。

館山市は、高校時代秋田で美術部の友人であった富樫研二君が住むまちです。その縁で、戦争遺跡やハンゲルが刻まれた四面石塔などの文化遺産を大切にして、平和祈念活動をする皆さんと親交を温めてきました。「館山まるごと博物館」という活動の理念に共鳴し、敬意を表しています。

なかでも、館山で描かれた青木繁『海の幸』は私が大好きな作品です。この絵は労働者の象徴です。苦勞して私たちを育ててくれた在日一世の姿にも重なります。青木繁『海の幸』の誕生を支えた小谷家住宅を保存するために、全国の画家の皆さんと一緒に募金活動をしていることも素晴らしいですね。小谷家住宅が公開され、船田正廣さんが制作した刻画『海の幸』のブロンズ像が設置されるときには、私も韓国の光州市立美術館に常設し、日韓の友情の証にしたいと願っています。

【受賞・役職等】

- ・韓国宝冠文化勲章
 - ・ソウル特別市・釜山広域市・光州広域市・全羅北道名誉市民
 - ・京都市長表彰
 - ・光州市立美術館名誉館長
 - ・韓国朝鮮大学校美術学名誉博士
 - ・韓国秀林文化財団理事長
 - ・在日韓国人文化芸術協会第 3 代会長
 - ・東京王仁ライオンズクラブ第 20 期会長
- 等多数

【著書】

- 『韓国と日本・二つの祖国を生きる』『祈りの美術』『予響曲・ひびきあう心』
- 等多数